

日本海海戦 100 周年記念事業 1000 人委員会主催

日本海海戦 100 周年記念歴史セミナー「世界を変えた日露戦争」

講演要旨

歴史を変えたトラファルガー海戦と 日本海海戦 そして日英同盟の意義

C. W. ニコル

平成 17(2005)年 5 月 28 日

パレスホテル (パレスビル 3 階会議室)

ぼくのおやじの名前はジェームズ・ネルソン・ニコルです。おやじも、おじいさんも海軍でした。おやじは 27 年間、海軍にいました。第一次大戦が始まったときに、ぼくの曾おばあさんが 5 人の息子と並んで写真を撮りました。5 人とも海軍でした。それから 1 ヶ月もしないうちに 5 人のうちの 2 人が死にました。ニコル家の歴史を見るとずっと海軍で、その前は海賊らしいです。

東郷平八郎がイギリスで訓練を受けた場所の一つにチャータム (Chatham) があると思いますが、そのチャータムで「ヴィクトリー号」(Victory) という艦が造られました。この艦は何年もかけてできましたが、この「ヴィクトリー号」には 102 門の大砲がありました。艦の前のほうに 68 ポンドの弾を打つ大砲が 2 門、あとの大砲は横にありました。

この艦が、トラファルガー海戦でネルソン提督が旗艦として乗った軍艦です。ことしは対馬の戦いから 100 年ですが、トラファルガーの戦からはちょうど 200 年です。

ぼくは 12 歳のときに海軍のカadet になりましたが、トラファルガーの戦の話はよく憶えていて、どの艦がどうしたということは、寝ていても話せるほどです。ネルソンは小柄な人でしたが、12 歳のときに海軍に入って、戦で片目と右腕を失っていましたが、大変に頭がよくて、しかも水兵を大事にした人で、みんなに愛されていました。

その当時、ナポレオンの軍がヨーロッパ全体を

支配していました。そして、島国の英国にもナポレオンの軍隊が攻めてくるに違いないと思われていて、それを止めることができるのは海軍だけでした。

歴史を変えたトラファルガー海戦

トラファルガーの戦のときに、ネルソンには 27 隻の艦がありました。そして、敵のフランスとスペインの艦隊は 33 隻。

ネルソンは、訓練、特に砲術の猛訓練をしました。火薬をこんなに無駄にするのかといわれるくらい砲術の猛訓練をしました。ブロードサイド (broadside, 片舷斉射) のとき、一度に撃つと艦がダメージを受けますから、ダ、ダ、ダ、ダと、波のように撃つのですが、ワン・ブロードサイドが、「ヴィクトリー号」は 60 秒でできた。最低でも 90 秒。フランスとスペインの艦隊は、その 4 倍かかりました。

あの頃の戦では、お互いの艦を近くまで寄せて、マストの上のほうから敵の艦の上の人を鉄砲で撃ちます。ネルソンの部下が、「提督、お願いですから普通の上着を着てください」といいましたが、ネルソンは提督の服装のまま、どんとクォーターデッキに立って動かない。それで撃たれて、銃弾は肺を通して背骨に当たりました。ネルソンが倒れてから 3 時間でトラファルガーの戦が終わりました。

敵の艦隊は 19 隻がやられて、2 週間あとでさらに 4 隻がやられて、ほかは使いものにならない。その結果、ナポレオンは軍艦がなくて、英国を攻めるのを諦めてオーストリアへ向かいしました。一つの戦いの勝利で英国は助かりました。

対馬の戦をした東郷平八郎の頭には、このネルソンのトラファルガー海戦の歴史があったと思います。

日本の鯨取りの歴史

ぼくが日本の海の男たちと付き合うようになったのは、カナダの西海岸沖で、太洋漁業がカナダの会社と一緒に捕鯨をやっていて、1965 年に、その船に乗ってからです。その前に 2 年半ほど日本にいて、日本語が少しできて、カナダに帰ってカナダの北極水産研究所の技官になり、その管轄に捕鯨が入っていましたから、クジラの研究に回されたのです。

初めて日本人と一緒に海に出て、危険な仕事を見たり、一緒に酒を飲んだりして、いろんな話をしていました。その頃の日本の捕鯨船には元海軍の方が結構多かったです。その後、大西洋で極洋捕鯨が捕鯨をしていて、そちらに回され、また日本の捕鯨船に乗って、日本の鯨取りたちと仲良くなりました。

ずっとあとで、反捕鯨運動が出てきました。反捕鯨というより反日本、日本バッシングになった時に、ぼくは我慢できなくなりました。捕鯨に反対する意見を持つ人がいてもそれは構いませんが、嘘は大嫌いです。反捕鯨の運動にはすごい嘘があって、「日本の鯨取りは、最後のシロナガスクジラを動物の餌として獲っている」などといいました。とんでもないことです。

そんなことはないことをよく知っていましたから、日本の捕鯨の弁護をしました。問題はぼくが役人だったことで、捕鯨からほかの仕事に回されました。役人は口出ししてはいけないようです。しかし黙れといわれてから、倍以上発言しましたから、だんだん居心地が悪くなって、日本へ帰ってきました。

そして、人の感情を動かすのは文学であり、ワード (word)、言葉だと思いました。西洋に日本の鯨取りについて悪い感情が起こっているから、日本の鯨取りの歴史をよく調べて書いたら、わか

てくれる人が出てくるだろうと思いました。

それで日本の捕鯨の歴史を書いているうちに、いろんなことがわかってきました。たとえば、第 2 次大戦が終わってから、マッカーサーが、日本人に南極へ行って鯨を獲れと命令を出していました。アメリカが日本人に鯨を獲れと命令して、それをアメリカ人がすっかり忘れていました。

イギリス海軍と日本海軍

そのうちに日本の捕鯨と海と海軍は、分けられないものだなと思うようになりました。また、日本が大好きになって、日本の国籍が取りたいと思うようになりました。ぼくは長男です。ぼくのおやじは海軍で日本は敵でした。しかし、よく調べてみると、英国海軍と日本海軍は少なくとも 24 年間、すごくいい関係にありました。

それで、それを調べて書こうと思いました。もちろん、日本の資料もできるだけ読みました。皆さんは「三笠」がどこで造られたかご存知でしょう。ノーザン・イングランドのバロウ (Barrow, Barrow-in-Furness) です。まず英国へ行って、日本の軍艦が造られた町を全部訪ねましたが、その前にポーツマス、アメリカのポーツマスではなくて本物のポーツマスにも前以て「元海軍軍人の息子ですが、書類を見させてください」と手紙を出しました。

そうしたら、ダンボールに入った書類が、芸者さんの手紙まで含めてたくさんありました。特に海軍同士の情報関係の資料が素晴らしかったのです。

バルチック艦隊が出てくる前に、英国海軍のジェームズ・ボンドみたいな人たちが、あちこちのパブへ行って、酔っ払った振りをして、「英国で日本のためにもものすごく早い MTB (Motor Torpedo Boat, 高速魚雷艇) を造って、イギリスの秘密の港に隠してあって、バルチック艦隊が出てきたら神風アタックをする」というような、嘘の話をばら撒くのです。敵には嘘をいってもいいようです。

それから、イギリスの漁船にイギリスの海軍から、バルチック艦隊が近くを通る時は、ロケットを打ち上げて、自分の位置を知らせなさいといいます。これは、そのためにバルチック艦隊から撃たれてしまうかもしれないので、大きなギャンプ

ルでした。

バルチック艦隊のほうは、小さな船にやられるかもしれないとびくびくしていましたし、慣れない水兵も多かったので、漁船のロケットを見たら、相手を確かめもしないで、20 分間もその方向に砲撃をしました。

また、バルチック艦隊が出てきたときは、英国海軍の軍人は休暇がキャンセルになって、軍艦はボイラーを焚き、弾薬も一杯積んで、戦闘準備のようにしていました。

実際にイギリス海軍はロシアと戦争がしたかったし、そのあとでフランスとやりたかったようです。そのような資料が出てきます。

バルチック艦隊が、水とか食料とか石炭を補給するために、スペインのヴィーゴ (Vigo) という港に入った時は、40 隻のイギリス艦隊が沖合いで待ち構えていました。そして「ロシア艦隊に協力したら、ヴィーゴをぺちゃんこにする (We will flat you!)」といったのです。あの頃のイギリス海軍は勢いがありました。いまでもやってみたいですね。

それで、ロシア艦隊には「48 時間以内に港外に出ろ」というのです。港から 1 隻ずつ出てきたら、40 隻が撃つのですから。出ようにも出られない。しかし、イギリス政府は戦争をしない方針でした。

とにかく、面白い資料がたくさんありました。

それから、二人の日本海軍士官がロシア系アジア人になりすましてロシアの造船所に入り込んでいます。造船所にはコミュニストがいましたから、彼らと協力していろいろサボタージュをします。たとえば、あの頃の艦はリベットを使っていますから、そのうちの何本かを木でつくった偽物に代える。そうすると航海中に水漏れが起こる。この二人は女の裏切りで身分がばれて、ロシアの艦に乘せられて、拷問受けながら南アフリカ沖まで行って、絞首刑になりました。このようなことが書かれたレポートもありました。

とにかく、イギリス海軍と日本海軍の関係を 10 年かけて調べました。その間、3 回、イギリスに行きました。また、マルタ、マルセイユにも行きました。イギリスには海軍関係専門の古本屋があります。多分、ぼくは英語で書かれた英国海軍の日本関係の本は世界一たくさん持っていると思います。

バロウに 3000 人の日本海軍関係者

小さな町の新聞や雑誌も調べました。その頃の島国の英国と日本は、いまよりもずっとお互いをよく知っていました。日本の海軍の人たちは英国で深く尊敬されていました。

特に彼らが住んでいた町、たとえば、最後にバロウでつくった日本の軍艦は「金剛」でした。この「金剛」を造るのに 2 年 (1911 年起工、1913 年竣工) かかっている、その間、日本人が町に住みついていました。最後に 3000 人以上の日本海軍の人が住んでいました。当時のバロウの人口は 3 万人です。日本の水兵がイギリス人の家にホームステイしています。中には酔っ払って何か問題を起こした人もいるだろうと思って、一生懸命、資料を探しましたが、いませんでした。

本当に人道的なルールがよく守られていたが、それはネルソンの影響ではないかと思います。ネルソンは「敵が倒れ、艦が沈んだ時は敵を助けよ。人道的に紳士的にやりなさい」と命令していました。

対馬の戦は、日本人は誇りに思っていると思います。勇敢に戦っただけでなく、そのあとの捕虜の扱いが非常に素晴らしかった。

ぼくは戦争が嫌いです。しかし、歴史を忘れてはいけません。歴史を正しく見るのが大事です。いま中国はいろいろいっていますが、いい歴史もありましたから、両方をちゃんと見ましょう。

ぼくはこれからも日本の海の男を、弁護できるところは弁護します。そして駄目だと思うところは、はっきりと駄目だといいます。

ありがとうございました。

【文責・中島 洋】

Summary of a lecture entitled **Trafalgar and Tsushima Sea Battles that Changed History and Significance of the Anglo-Japanese Alliance** given by C. W. Nicol at History Seminar "*The Russo-Japanese War that Changed the World*" sponsored by 1000 Persons Committee for the Centennial of Battle of Tsushima Strait, at Conference Room on the third floor of the Palace Hotel on May 28, 2005.

At the beginning of 19th century, Napoleon was rampaging all over Europe and threatened to invade the island nation of Britain. On the 21st of October, 1805, off Cape Trafalgar, Spain, the British fleet challenged a powerful allied of French and Spanish. Fleet commander Admiral Horatio Nelson, aboard the Victory, led his ships into battle. By the end of the day the British had won, although Nelson himself was mortally wounded by musket ball fired from high in masts of the ship that the Victory was engaging in close combat. Napoleon was no longer able to regain the sea power needed to invade Britain.

A hundred years later, Admiral Togo Heihachito, who had trained in Britain and was student of Nelson's tactics and aggressive ways of naval warfare, defeated a Russian fleet off Tsushima.

In both battle, a hundred years apart, island nations fighting for their very survival defeated the powerful fleets of continental powers, thus preventing invasion, then fallen enemies with exemplary examples of fairness and naval chivalry.

This year, 2005, the 200th anniversary of the Battle of Trafalgar is being celebrated in Britain with great pride. What about the 100th anniversary of the Battle of Tsushima? Will Japan as a nation celebrate with pride?

I have no wish to glory of war. War is the ultimate waste. However, small island nations inevitably face the need to defend their maritime route, coastal areas, and in the worst scenario, the nation itself.

Britain had faced invasion after invasion from the continent. It wasn't until the British built a strong, proud, well-disciplined and trained navy that the Britain could really call themselves independent. As Japan emerged from isolation into a world that was being divided western colonialism it was obvious that survival for Japan depend upon a strong navy. Britain was far less of a threat than Russia and her allies. It was a sensible and far sighted decision for the two nations to enter an alliance that marked a period, lasting over twenty years, of broad cooperation and understanding in all fields of endeavour.

As oldest son of James Nelson Nicol, a Royal Navy man, and as a Japanese citizen I have studied this history and the feelings and thoughts of the British and Japanese people, especially navy people of those times, and strongly believe that they have significant meaning for Japan today.

C. W. Nicol